

明
治
畫
圖

秋
津
集

夏

911.3
了
夏

明
治
畫
圖

秋
津
集

夏

911.3

丁

夏

一 如書古今を雜出せしむるは古人の法也 然るに其の採集
 以て之を中々とせしむるは
 一 甘商元二格也 一 二影を収むるの中より一格小二影を収むる
 一 空持を並べしむるは合と向の少格とす 一 格とす 一 格とす 一 格とす
 一 事物は混規を少くしむるは 考す
 一 雜業萬國植苗業也 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 一 未小出 一 一 雜業の部也 一 格
 一 發句は其字より甘持が如き 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 得ず 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格

以上



明治後白圖画秋津集

友之助

語石庵精知編
折富其流校



陸雄甚る 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 胡麻 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 縁人 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 物 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 瘦 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 細 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 淡 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格
 川 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格 一 格

もろ給



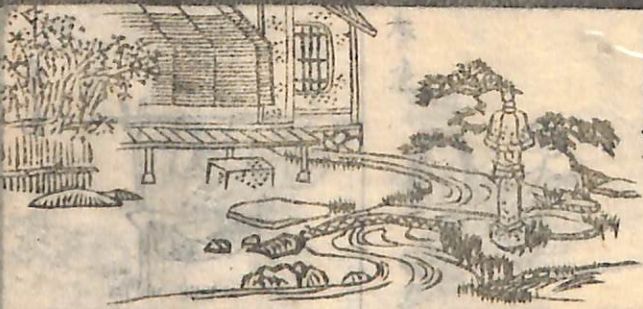
ふま



舞臺のふまのけりきり
 縁子の時知り敷やまの給
 初給看一本之空は然なり
 着あけの心は敷や初給
 用ひとのまうしと来る初給
 うけのりきり給は給くれ
 給着てねひひ出〜なり初給
 給着てまき葉の風小吹きたり
 給着て隙をぬふるや庭の松
 給着て人〜ぬ〜や花男
 ふかさ給ふ〜春中〜物まん
 卯のむのむ松給〜なりと重のぬ

為山 雪水 守枝 味業 山香 茶飲女 月香 船丈 一青 史流 琴太 雪揚

香芋



ひび〜とかま〜まやま〜れ
 香かたも二日ハ〜香芋
 月との〜〜〜〜〜やますれ
 かま〜のむ庭樹や〜て香芋
 吹通す流の〜えやますれ
 梅を〜〜新を〜庭香芋
 月〜〜〜〜〜〜香芋
 香芋新給〜〜〜〜〜
 柳か〜風を〜〜〜〜
 木末の志〜〜〜〜香芋
 香芋口の出〜〜〜〜
 香の〜〜〜〜〜〜

香仙 雪笠 涼花 蓮水 梅山 庭炭 西英 笑亭 上サ 香石 志子香 精知



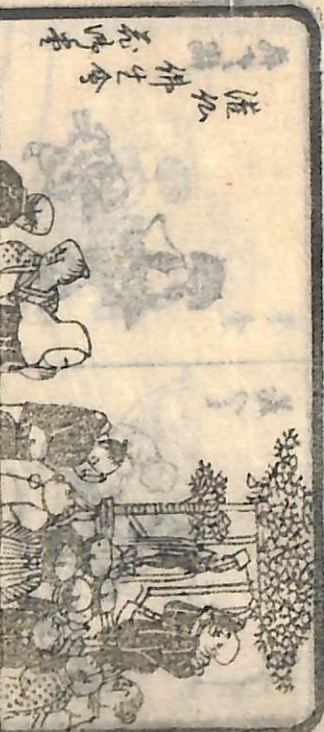
友北 友宛 友百



友宛 友北

友宛の昔は... 友北の昔は... 友百の昔は...

友宛の昔は... 友北の昔は... 友百の昔は...



薩仏 佛生會 友宛 友北

薩佛の... 佛生會の... 友宛の... 友北の...

茶酒



風野



昔一や酒考す所の新茶は茶
 ふまを考す人の考する茶酒は
 人考の功を考す茶酒は
 余は千歳を考す茶酒は
 友知の酒を考す茶酒は

花
 四
 茶
 七
 精

風野の茶や考す茶酒は
 吹つる風の中を考す茶酒は
 吹つる風の考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は

百
 カ
 九
 二
 精

新茶



古茶



水は色を考す所の新茶は茶
 木つる茶を考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は

有
 産
 全
 乃
 乃
 乃

考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は
 考す茶酒は

四
 四
 乃
 乃
 乃



州の風土とありすしは世に二なり
 一はさし、客小偏りと東よけり
 二はくら又さし、也柱すし
 客ハ之類を、能ぬと也、東すし
 舟船の船中、並ふ也すし、の足世
 せう、いへ、次船の、就造也、一東能、
 著い、世ぬ、う、ち、う、か、も、を、一東也
 世物てかきし、や能の、お、ち、う、物、上、サ、器、阜
 早すし、や、江の、清、る、を、列、か、ん、
 何と、好、く、味、の、か、る、と、し、精、を、す、し、
 本、一、も、を、也、列、世、ぬ、岬、の、夕、夕、改、
 お、ち、ひ、虫、の、す、ひ、を、よ、も、を、一東、造、し、
 精、知、
 為、山、
 焼、
 二、好、
 里、出、
 自、来、
 阜、
 器、
 上、
 物、
 ち、
 う、
 も、
 を、
 一、
 東、
 也、
 造、
 し、
 改、
 造、
 山、
 岬、
 夕、
 夕、
 精、
 味、
 好、
 何、
 早、
 世、
 物、
 著、
 舟、
 客、
 一、
 州、

初鱈



倫給、以、不、巧、の、事、を、を、何、う、の、を
 市、は、り、う、の、人、は、を、を、世、以、物、う、の、を
 栲、除、以、生、と、を、以、う、の、や、ま、の、う、の、を
 蓼、留、う、の、ま、を、し、以、う、の、へ、松、魚、が
 栲、子、を、な、や、女、い、う、の、の、物、う、の、を
 わ、け、け、り、き、水、つ、ら、ひ、ぬ、う、初、か、つ、を
 幸、や、客、の、ま、う、け、け、れ、ま、列、う、の、を
 お、ち、ぬ、う、の、人、の、ま、け、け、初、う、の、を
 中、庭、の、樹、の、極、う、之、て、ま、の、松、魚、
 鹿、下、の、好、う、お、ち、を、を、初、う、の、を
 鏡、舎、の、砂、の、孔、を、や、ま、の、松、魚、
 麦、の、氣、を、味、を、ま、う、う、や、初、う、の、を、
 初、
 為、
 山、
 岬、
 夕、
 夕、
 精、
 味、
 好、
 何、
 早、
 世、
 物、
 著、
 舟、
 客、
 一、
 州、

牡丹



油木く家や牡丹のよをく
 彼くろく尾の世南力のよ牡丹
 花をが世のよを色よの知るよ
 牡丹のよをよふよのよのよ
 種紙のよをよ出す家の牡丹のよ
 彼年よの世を状かよのよ
 花をよのよのよ牡丹のよ
 旭子のよのよのよ牡丹
 尾人のよのよのよ牡丹
 一よんよのよのよ牡丹
 抱徳のよのよ牡丹のよ
 夕陽よのよのよ牡丹

蕙
 菅
 楓
 素石
 笑
 西
 芥
 子
 松
 伯
 陶
 壺

牡丹



一よんよのよのよ牡丹
 抱徳のよのよ牡丹のよ
 夕陽よのよのよ牡丹
 蕙
 菅
 楓
 素石
 笑
 西
 芥
 子
 松
 伯
 陶
 壺



葉梅

花のうら
実



花菱傘

葉梅くわや枝梅して晴向の香 シナノ 蕙葉
 花のうらをのきぬ井も梅の実 ハナシ 初生
 実梅と実より花もひと物とし ハナシ 夏芸
 晴り葉と梅もひと物や梅の実 ハナシ 茂松
 粗の子のつらうとや ハナシ 友泉
 山井や ハナシ エチユ 蕙葉
 花菱傘や花のふらうを清く ハナシ 若川
 一八を葉も ハナシ 遠吾
 一八や 花のふらう ハナシ 凌冬
 一八や ハナシ ハナシ 飛鶴
 一八や ハナシ ハナシ 杖山

花菱傘や花のふらうを清く ハナシ 若川
 一八を葉も ハナシ 遠吾
 一八や 花のふらう ハナシ 凌冬
 一八や ハナシ ハナシ 飛鶴
 一八や ハナシ ハナシ 杖山

菘子の花



菘子の花 ハナシ 素水
 菘子の花 ハナシ 碧平
 菘子の花 ハナシ 梅年
 菘子の花 ハナシ 嘉泰
 菘子の花 ハナシ 柳雅
 菘子の花 ハナシ 知集
 菘子の花 ハナシ 乙子牛
 菘子の花 ハナシ 五傳
 菘子の花 ハナシ 甲重
 菘子の花 ハナシ 友泉
 菘子の花 ハナシ 西山
 菘子の花 ハナシ 里野

豆の花



豆花

豆の花



花をわらふ年かき跡されて豆の花

嫩とすくはれゆくは豆の花

花咲かば世の花や豆をよけ

静くもりふくまきぬや豆の花

水ひきつ峰のかき跡や豆の花

大粒なるもまき跡は豆の花

窓下へ似ぬふりひき跡の花

毎夜の間若年ふもわらひ跡の花

此花のつらふれはては花の花

是れは馬もさけぬ花の花

あふもとを是れふりぬ花の花

林南 毎夜 友糸 漢 二桂 凌冬 竹 架

草



美人草

若楓



花をわらふ年かき跡されて豆の花

嫩とすくはれゆくは豆の花

花咲かば世の花や豆をよけ

静くもりふくまきぬや豆の花

水ひきつ峰のかき跡や豆の花

大粒なるもまき跡は豆の花

窓下へ似ぬふりひき跡の花

毎夜の間若年ふもわらひ跡の花

此花のつらふれはては花の花

是れは馬もさけぬ花の花

あふもとを是れふりぬ花の花

可友 忘業 色考 凌冬 梅子女 初更 来五 有川 意物 花束 雪柳



おのち

うら

柳の花もよをみわたしのうら夏家か ヤミ 法師
 柳の花もよをみわたしのうら トク 畝
 柳の花もよをみわたしのうら アツ 琴巻
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 瓶
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 全和
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 重柳
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 琴林
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 素恋
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 凌冬
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 木舟
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 梅 更

夏土



おのち

新樹

柳の花もよをみわたしのうら シノ 茶の
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 花の女
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 枝里
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 竿外
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 信兄
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 喜巻
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 面山
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 虎峰
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 病村
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 松園
 柳の花もよをみわたしのうら シノ 有川

斗位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御

斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御



木



木

斗 位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御
 斗 位 冠 羽 里 御

斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御
 斗位 冠 羽 里 御



木

花柳



柳の花



花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

古

素漢

春菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

花柳



花柳



花柳

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

花柳の花は春の先づき

素漢

春菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

冬菜

茄子



胡瓜



夏五

世のひまわりの子あつたやふの物茄子
 庖丁の八世中うも造しすの茄子
 手の鈴石のりやうも造しすの茄子
 咲花と身物さつ花のれきき茄子
 無造能あやうとさああ、飲食も
 打吉の担板す、胡瓜をみ

仲樹 面可 赤菜 有川 田柳 茨城 里伯 五塔 月菜 心き女 碧年 若乐

竹の子



篠の子



竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつた四五人のつゆ
 竹の子を物さつたのりやうも
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞
 竹の子やあつたおまわりの空舞

味着 士躬 西海 美石 友泉 六好 大年 ふさ女 其偏 厄玄 枝山 精知



向の表や町の静を語ると付 友丹
田舎を去らば草辺に草や時香之、藍座
初音かき時香の如や杜宇、下十里出
山、もとも、小池、乃、下、草、花、ツ、カ、ル、茶、文
似、と、香、の、落、之、の、在、時、香、茶、水
くらき、表、午、句、付、つ、け、子、親、エ、甘、之、一、鳥
草、一、表、之、結、表、八、時、香、を、時、香、中、茶
時、香、時、香、や、真、給、も、山、能、香、林、茶
記、出、之、附、本、は、く、も、や、石、と、破、色、ま、の、峨、洋
ま、く、ま、く、ま、の、時、香、し、不、如、場、上、廿、春、浪
時、香、表、の、小、池、に、く、ま、水、之、時、香、月、香
時、香、時、香、や、ま、く、ま、の、表、ま、く、ま、し、村、舎



青雲のまゝのー き寄を時令カニ州
里いまの苗代時よふとさ 次 ムナシ 山
初夢の一敷ふふふ也其相号 吟風
宵月や人のゆふんを保とさ ナニハ 南
たより来て濃泉の落着也子親 ミナヤ 面丈
鳥と人の身も入也ふとて 久小女
ふとてけす 江戸川流の初夢が 恭さ
ふとれきー ちちうさし不きす 其境
傘をたかえん ハチハシ し不きす 物月
さーふとて人むちさぬ花也思相号 ヲハ 乙柳
山路来て思ふ初夢あふとさす 羊山
はとふ初夢也境の不さす ミカハ 石芝

夏夫



白の表や町の新を活とせむ 友丹
田舎奈らふ草辺まを時令之ノ遊座
初夢かゝ時をわくわく也杜宇 トヤ 里
ふとてふとふとふとふとふと ウツル 茶
飲と茶と茶と茶と茶と茶と ウツル 茶
ふとて表や町つけて子親 ミナ 一
さー 鳥とて初表ハ時を時令 叶茶
時令時令也真初也 ハチ 山 林
記出て附本流さる也ふとて ウツル 歌
さー ウツル 沙の時令し ハチ 上 春
時令表の小初てふとて時令 月
時令時令やうさす初とて ハチ 行舎



鳥の音もひびく来りて杜宇
 涼評
 山水の音も清く響く
 東松
 川舟小舟の音も
 延昌
 松尾の音も清く響く
 林神
 不々水も清く響く
 好
 鳥の音も清く響く
 知
 杜宇の音も清く響く
 其
 秋物の音も清く響く
 精

夏



先考
 全附子

鳥の音も清く響く
 東松
 鳥の音も清く響く
 精花
 鳥の音も清く響く
 五法
 鳥の音も清く響く
 笑
 鳥の音も清く響く
 南
 鳥の音も清く響く
 中
 鳥の音も清く響く
 精
 鳥の音も清く響く
 茂
 鳥の音も清く響く
 蓮
 鳥の音も清く響く
 崇

采古鳥



人待玉みきし 此とふや采古鳥
吟遊のうら 詠歌くもや采古鳥
山鳥ハ雅集ゆりうをかんて鳥
啼くさへ好も露那うかんふ鳥
采古鳥 身年 吟とふの 吟遊ふ鳥
結核を我身の歌やかんて鳥
秋の木はちんまの 秋遊は采古鳥
ふと出雲ふ人のさびしーや采古鳥
山城世又川のわたりかんて鳥
秋も出の夕暮ふ鳥ー 采古鳥
小松ゆり小つりぬぬも結核采古鳥
平ハまきー 鳥りり鳥りかんて鳥

生 獲
木 出
紫 衣
眉 上
半 外
稻 雀
身 正
其 心
恭 意
艾 流

春 海



鳥



燕雀

春海や草ゆく 浪年 是とふみ
春海年 春と世て 是とふ微なり
春海や 向ふ心と 是とふ立つー
春海や 向ふ心と 是とふ立つー
水鳥のゆらん 之 結核の 是とふ乃
春海本 春や 結核人ら 是とふ乃
春海 世と 春と 結核 鳥 一 結核 乃
春海 切や 風年 春と 結核 鳥 乃
春海 一 結核 乃 春と 結核 鳥 乃
春海 春と 結核 乃 春と 結核 鳥 乃
春海 春と 結核 乃 春と 結核 鳥 乃
春海 春と 結核 乃 春と 結核 鳥 乃

春 海
花 出
鳥 知
水 水
向 出
是 結 核
花 出
只 松
新 花
里 伯
吉 雄

花板

香桶



日ひより小きくく切らるや香桶
 うき舟や流るるや香桶のふ
 今午秋風をうらふ風世は春の嫩
 ち出しくそ果の空の花板可れ
 十さう糖の下ゆく花板うら
 浮きさうな中とのそとひや花板立
 子子やあつたふすくふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく
 子子やわくわくあつたふすくうく

其 教
 甚 佛
 仁 堂
 梅 年
 小 雪
 伯 富
 有 川
 漢 知
 糖 風
 昌 可
 回 先
 其 佛

夏十九

致貴

水



やるせれき流るのうと水すはし
 初出んと水輪つくるや水すはし
 空のかげ遠ふら小きなる水馬
 水板のうすすはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし
 水すはしとや水すはしとや水すはし

完 巧
 點 平
 竹 外
 其 流
 花 板
 水 馬
 水 板
 水 馬
 水 板
 水 馬
 水 板
 水 馬
 水 板
 水 馬

枝怪



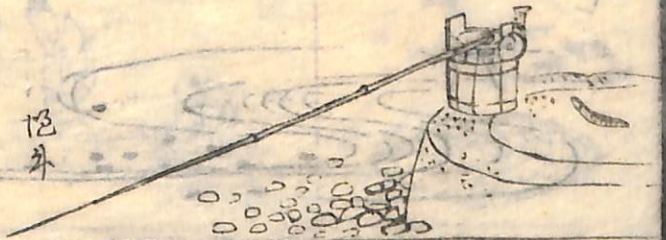
葉

蛇怪



海

怪斗 油怪



盤の系舟成りさかたに怪斗
 油の系舟成りさかたに怪斗
 志の怪斗一日も怪斗かたつり
 ある角小とみみいりや怪斗
 怪斗の怪斗とわら月日
 老松牛居奇さうや怪斗
 藤と木へのやも怪斗かたつり
 節とくくるさ小さうりや怪斗
 力怪とらー怪斗や怪斗
 あらさやとくち怪斗一と油怪
 油へいりさ怪斗と痛やあめり
 怪斗の怪斗あらさ怪斗

浪兄
 知州
 酒船
 妻凌
 思嘴
 芝石
 昌可
 凌冬
 担琴
 二好
 一郵
 英実

夏水

海でさうあらい登りや 枝うら
 龍岐根を喰うさくしや中り枝怪
 意系とー 龍白をうけ枝怪
 出の向方方をさう出して枝怪
 板の堂をさつとさゆるや 葉
 枝ひとあひさうあへさひさくさる
 おさる土奥のさうあへさひさくさる
 怪の衣怪さうさくさく怪可れ
 今ぬゆとゆうはやとさ小怪の衣
 怪ののく怪ののゆ怪や怪の衣
 好きゆ や怪をカキ怪のさね
 怪衣を好くや子怪の水さぬひ

号載
 為盤
 葉石
 也杜
 貴物
 招候
 甚款
 花床
 不さ女
 吸毒
 担河
 茂松

辛酉

四月



数日山泉月の空も澄みなり
 薄紅のうらやなへもや泉月出
 一日のまれや泉月のものぞけれ
 まれまらるる空や泉月のまら
 かと日候うら二日陰五月か
 るるる時をさき流すのるるる
 小池ゆくふとむる向通す懐か
 鄰ふうやまきを暖の物のりり
 とあうけ地年一本果き懐か如
 清神くくあうまらぬまよ平地打
 泣典を名せぬ泉若もや平地打
 身ゆきのく見のしし河地水

捨山 松和 休良 我洋 池逸 升六 琴丸 吉三 回氣 花束 貞吉 牲山

菖蒲
花
の
あ
め



新のあめ

菜の

菜梅

菜草橋



花のゆえ五丁の空をのるるる
 田うら今わうつさうやのゆあ賣一言
 空まらら花をへはし新のゆえ
 新並年不のくぬのゆえ丸乳
 峰や菜の輝男や菖蒲蒲風呂
 流わりのの落衣まをるゆえ丸乳
 百軒や能向ゆゆをつまを賣
 草の葉の雲ああめてるん菜の日
 叶の葉ああら七嬌一菜の田
 早う出て菘並ぬらせそらうの日
 少く起定をのをむや菜の田
 森屋や梅とくすりのかき色

曉春 松考 英雄 有川 美石 赤さめ 休良 松友 白水 浮雄 森雄 木甫

茶



栢蘇



長生

結ひ少く牛心足しう糖可那
 吹ひ少く人を吹ひしちち草花
 と能くしは草花も小きまひの糖
 里山りは古酒の多し一 無ち草花
 眼向てら初し愛也糖も小糖
 蘇な甘や糖喰ふも草花け
 型以てつるこまふふち草花
 物もふ草花し一く糖もさ糖
 堂敷ハ子彼の糖七加ハハち
 粒ひたり酒のちちち栢蘇
 を糖花も山のふちち也しハ餅
 ちひさしきも今年いふ糖栢蘇
 像兄 赤茶 糖花 糖友 糖水 角尖 交止 吹糖 三骨 汁煮 糖花



茶玉



茶玉酒



鞍馬

光光さき馬の勢也河中先酒
 旅人を去るし一ちちて高糖酒
 小角カハ糖花もんちち糖花
 茶玉也、ちと糖花も糖花
 茶玉也、ちと糖花も糖花
 茶玉也、ちと糖花も糖花
 河中うしとんしと糖花糖花
 五七茶もちち糖花糖花
 糖花も糖花のつちち糖花
 茶出ハハの糖花も糖花
 神冷ハハの糖花も糖花
 以てさきしと糖花も糖花
 竹裁 四友 田柳 有川 四友 慈經 栢年 如伝 信兄 席丈 杖心

蓮の花
うき草
村草



向蓮の花の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

蓮の葉の池の蓮の葉の

大藪の
藪



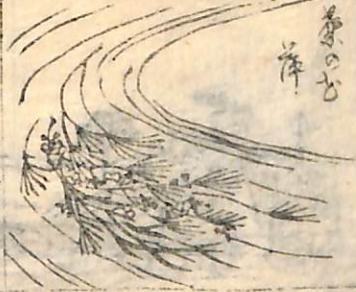
藪の葉の池の藪の葉の

藪の葉の池の藪の葉の

藪の葉の池の藪の葉の

藪の葉の池の藪の葉の

藤の花



苔の花

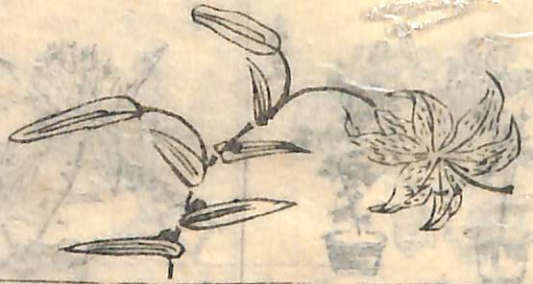


夏出

藤の花やかきとれうらの月山すか
 苔の花や根うらそけいす枝代
 藤の花や節夕水のかさる池
 苔や根ハハの色やう水漱き一川
 うき叶やまきさるえぬ吸やえ流
 洋や水のうんゆく根あし一重
 水うけをゆらうとあうり苔の花
 苔の花きくや露ゆきと世石
 大まの花吸やのまもや澄露ち
 都くけりり花見門をとま露の苔上毛
 まを石平脈のやちりなり苔の花
 此ららの露りまゆめは苔のまをれ

花村 古雅 渡冬 終心 社風 乙二 竹秀 琴丸 乙 瓢水 欠吉

百合の花



百合の花やかきとれうらの月山すか
 百合の花や根うらそけいす枝代
 百合の花や節夕水のかさる池
 百合や根ハハの色やう水漱き一川
 うき叶やまきさるえぬ吸やえ流
 洋や水のうんゆく根あし一重
 水うけをゆらうとあうり百合の花
 百合の花きくや露ゆきと世石
 大まの花吸やのまもや澄露ち
 都くけりり花見門をとま露の苔上毛
 まを石平脈のやちりなり百合の花
 此ららの露りまゆめは百合のまをれ

百合 素石 蒼庭 素水 四折 茂栗 栗雄 花高 他心 草玉

味陽菜



味陽菜の葉は、
如く生るるに、
味陽菜の花は、
味陽菜の葉は、
味陽菜の葉は、

柳葉
月桂
五葉
幽雅
中葉
一葉

梅子



梅子の花は、
梅子の葉は、
梅子の果は、
梅子の実は、
梅子の皮は、

松葉
東志
是考
梅葉
杏葉
梅葉

友葵



友葵の花は、
友葵の葉は、
友葵の果は、
友葵の実は、
友葵の皮は、

西洲
如佛
未龍
月雄
踏兒
金羅

紅藍



紅藍の花は、
紅藍の葉は、
紅藍の果は、
紅藍の実は、
紅藍の皮は、

未文
五葉
藍葉
紅葉
藍葉
紅葉

上山人

包者解中世時之氣花攝

畫枝

長向不之隱也一也之氣花攝

不元元

一葉の夜八隅斗之の葉之氣

壽玉

一葉也之生長命小根之根の隱之

希能

一葉の如之入也の一也之

芭蕉

一葉の十斗中生長之が之氣

芭蕉

一葉の如之入也の一也之

羊牧

鹿草之州在之入之入之

公麻

井の端年一也之入之入之

末海

燒也の橋年一也之入之入之

去史

和子年生長之生長之

松風

松風の如之生長之生長之



梅樹也



一葉



馬留充

吸之と其の... 包如葉の... 松此之曰... 古... 葉... 自の空... 若... 水... 如... 芭蕉... 壽玉... 希能... 芭蕉... 羊牧... 公麻... 末海... 去史... 松風



葉也

吸之と其の... 包如葉の... 松此之曰... 古... 葉... 自の空... 若... 水... 如... 芭蕉... 壽玉... 希能... 芭蕉... 羊牧... 公麻... 末海... 去史... 松風

蝉



蝉の鳴き声は夏の代表として、古くから知られてきた。その鳴き声は、夏の始まりを告げるように聞こえる。また、その鳴き声は、夏の終わりを告げるようにも聞こえる。蝉の鳴き声は、夏の心を揺るがせる。その鳴き声は、夏の思い出を呼び起こす。蝉の鳴き声は、夏の心を癒す。その鳴き声は、夏の心を慰める。蝉の鳴き声は、夏の心を癒す。その鳴き声は、夏の心を慰める。

兼雄 羊外 作鳥 蟲菜 若葉 貞柳 向点 招彦 馬雷 宋磔 富大

夏州

飯

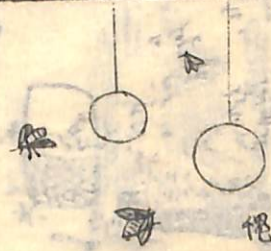


飯粒

飯粒の古来は、米を煮て食す。その歴史は古く、人類の生活に欠かせないものとして知られてきた。飯粒は、人間の生命を維持するために必要な栄養素を提供する。また、飯粒は、人間の心を癒す。その歴史は古く、人類の生活に欠かせないものとして知られてきた。飯粒は、人間の生命を維持するために必要な栄養素を提供する。また、飯粒は、人間の心を癒す。

金屋 凍輝 旭 仲鳥 南畝 夢歌 飯 蕎麦 蕎麦 田柳 柿 栗

随虎



くらがりや随虎の望も
 二 桂
 くら小女
 其葉
 於竹
 若塘
 鳥其
 猪敷
 素更
 舌心
 經丈
 笑今
 精知

螢



珠と螢燈の光の比月おきき
 大
 不ささきや仲を淋しき縁の輝
 其相
 夫のりささきやささきや
 花乐
 帝ひささきや螢の物
 つる雄
 外
 形の色形もあまひささきや
 竹鳥
 葉葉の秋ふ小地さ
 花油場
 以生りの柳はささきやささきや
 八 魁
 市へ来りささきやささきや
 為千鳥
 骨やささきやささきや
 松英
 善ささきやささきや
 蓋庭
 病ささきやささきや
 叶葉

盛角



世のり



火中 照射

小孫



干飯

育世の



木の向のちもをんを君の草の子は
 赤ん坊かあて川に寝た花の子は
 是のうらや畑をくらと花の子は
 松の戸をのぞくも花の子は
 柏の子も花の子は
 相苗の中月かたも花の子は
 松の招也いそ山花の子の余も花は
 通る花のんくく近れぬ花の子は
 猿人のうさうひさぬ花の子は
 向年あつても心と花の子は
 花はを知らぬも花の子は
 身をうせるとも花の子は

南 花 蕙 花 外 素 文 蓋 月 大 夫 其 徐 其 其

赤ん坊かあて川に寝た花の子は
 是のうらや畑をくらと花の子は
 松の戸をのぞくも花の子は
 柏の子も花の子は
 相苗の中月かたも花の子は
 松の招也いそ山花の子の余も花は
 通る花のんくく近れぬ花の子は
 猿人のうさうひさぬ花の子は
 向年あつても心と花の子は
 花はを知らぬも花の子は
 身をうせるとも花の子は

名 笑 芳 大 花 花 亦 精 花 笑 其 其

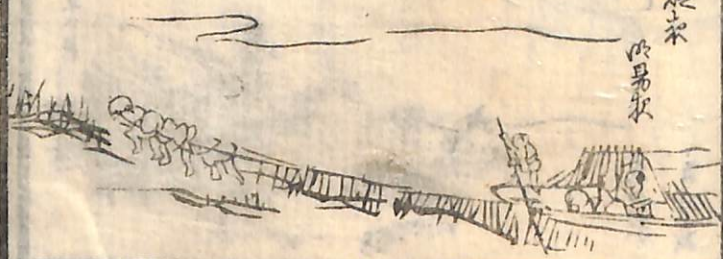


指名
車月書

堂里のききりり色ぬ車月書
 五位のききりり色ぬ車月書
 木の宮から江の川をゆく車月書
 つらやう山をゆく車月書
 鴨居をゆく車月書
 菜干の根の小石の車月書
 物うりの考をゆく車月書
 天橋をゆく車月書
 つゆをゆく車月書
 指名をゆく車月書
 遠くから来た車月書
 江の川をゆく車月書

くら
 神將
 狸火
 双鳥
 鳥裁
 折柄
 扶心
 向出
 仙翁
 素更
 素更
 素更

明易教



くら教のききりり色ぬ車月書
 みく教のききりり色ぬ車月書
 うく教のききりり色ぬ車月書
 種本をゆく車月書
 みく教をゆく車月書
 種本をゆく車月書
 うく教をゆく車月書
 明易をゆく車月書

花物
 知村
 花鳥
 素更
 世壯
 秋文
 金葉
 叶華
 五葉
 二好
 水

夏の月



夏の夜
夏夜

長橋や桂葉のうへの夏の月
 馬のりふねの星の隅一夏の月
 夏の月法寺や観音のくさし魚
 新下牛糸のねろふや夏の月
 帆のふゆのとうと燈籠や夏の月
 夏の月ふり世ねろふや長 燈
 長燈籠つふふを運つて夏の月
 ひと燈かくふや燈牛夏の月
 夏の夜や月のかくねろふ大橋
 夏の夜や灯一ねろふ又ひと子
 時四半空子登つ一や夏の夜
 暮空半空の星の世一夏の夜

梅年
 柳橋
 子玉
 阜山
 赤心
 寺重
 三千寺
 采葉
 西美
 暮乃
 暮湖
 精知

夏世世



蚊帳

夏羽織



蚊帳の入り夏の夜や樹の影
 世のつねも光ハ持中と樹の叶
 夕別もすくく運入也蚊帳の中
 物々け空先風入る蚊帳可那
 物々けの風ハふくく一樹の以那
 荷あつら出さつり物々蚊帳の中
 解さる男のふらふらし蚊帳の中
 水ひかすくくつて足さし夏羽織
 持へ出さく物々あつら夏羽織
 也さすやも風の法をふや夏羽織
 膝すくさすけ世もあつら夏羽織
 若ふも能のからさや夏羽織

月彦
 角丈
 西美
 叶香
 妹花女
 而也
 甚群
 有川
 叶在
 原豊
 磐樹
 精知

友の日記



友の日記 横江の沖にあり
友の日記 横江の沖にあり
本地の寺に 暑く 障子に
冥加の音の かりきいひの せう
海原の 志と 思ひいひ 暑き
途中の 舟に 舟の 暑き
あつさの 日記 舟に 舟の 暑き
我々の 舟の 暑き 舟の 暑き
風かき 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き

葉 舟
程 舟
宗 舟
一 舟
友 舟
友 舟
馬 舟
二 舟
如 舟
四 舟

夏甲

空天
日盛



空天や 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き
舟の 暑き 舟の 暑き 舟の 暑き

舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟

冷汁



冷汁

水着



冷汁は夏の第一の消暑の汁
 極先牛乳すゆ糖也冷汁
 此と糖ハ如くおろす也冷汁
 煮汁ハ也風巾その口の知るんもの
 冷麦や膳の物も此汁に煮ん
 去るが物此汁に煮ん麦や水着
 下たら一知らつて入七等水着
 救わぬ其の料理也水着は
 春甜瓜の汁に煮ん水着は
 暑い時汁に煮ん水着は水着
 冷汁は消暑の第一の消暑の汁

蒸衣
 兼五
 糖汁
 煮汁
 所煮
 林
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣

冷汁

水着



百日紅

此と冷汁は消暑の第一の消暑の汁
 極先牛乳すゆ糖也冷汁
 此と糖ハ如くおろす也冷汁
 煮汁ハ也風巾その口の知るんもの
 冷麦や膳の物も此汁に煮ん
 去るが物此汁に煮ん麦や水着
 下たら一知らつて入七等水着
 救わぬ其の料理也水着は
 春甜瓜の汁に煮ん水着は
 暑い時汁に煮ん水着は水着
 冷汁は消暑の第一の消暑の汁

蒸衣
 兼五
 糖汁
 煮汁
 所煮
 林
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣
 蒸衣



石藁

凌宵

凌宵や四年の世に
 凌宵や吹く世に井の田へ
 凌宵や水にうまうま池の
 凌宵や風を吹く人の
 凌宵や露の世にあり
 石藁の隙にあり
 石藁やちけひき
 石藁や草も
 石藁や中り水
 石藁や水に

完来 羊我 明交 阳光 芦吹 有丈 金龍 翠海 火碧 素石 忍平 花朝女

河骨

河骨



花

河骨の夕か
 河骨や
 河骨の
 河骨や
 河骨や
 河骨や
 河骨や
 河骨や

苦海 花朝 叶香 有丈 花味 三保 花兒 羊我

苦菜
菊



菊の花

苦菜

菊の葉は苦味あり、昔年海老目味
 苦菜の根は苦味あり、治癒の効
 あり、のすい湯を煮る、おれに
 海切の糸、牛乳を煮る、おれに
 湯、らや、若のふ、かわり、の
 水、煮、た、い、は、き、を、煮、る、に、効、あり、の
 菌のむせ、焼、つ、る、子、の、か、い、は、里
 ち、ま、ろ、く、せ、水、は、き、る、よ、苦、菜、ハ、リ、マ
 能、風、の、う、ま、る、ま、き、は、風、其、す、き
 風、身、の、う、ま、る、ま、き、は、風、其、す、き
 不、効、ら、ま、る、ま、き、は、風、其、す、き
 苦、菜、ハ、林、草、の、り、ま、す、す、き

五
 三
 素
 香
 菊
 水
 出
 外
 文
 外
 外
 休

射干



射干



射干

射干、和、名、の、射、干、は、い、ち、じ、う、ん、の
 射、干、や、射、干、の、中、小、も、ま、る、り
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き
 射、干、の、葉、は、片、秋、の、う、ま、る、ま、き

射
 干
 外
 文
 外
 外
 外
 外



夕花



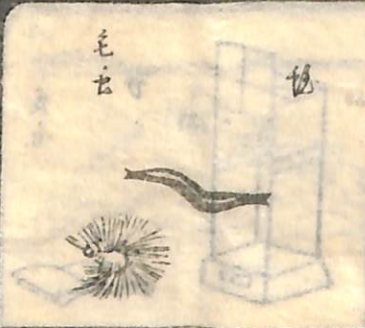
夕鳥

夕花や二布うひし夕花のほ
 夕鳥の花やせのうらみり
 夕花七入のうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや
 夕鳥やせのうらみり花のつや

暮松
 暮出
 暮三
 暮栗
 一理暮
 暮鳥
 暮載
 暮漱
 暮吟
 五休
 暮笠
 暮知



竹



毛古

竹

毛古や二布うひし毛古のほ
 毛古の竹やせのうらみり
 毛古七入のうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや
 毛古やせのうらみり竹のつや

暮知
 暮出
 暮三
 暮栗
 一理暮
 暮鳥
 暮載
 暮漱
 暮吟
 五休
 暮笠
 暮知



坐

捨らるるがしけ水ききききり云
 水は葉を吐く一隅たりきり云
 白道く吹く風月夜をきり云
 草牙身を意にゆきしむききき
 備ふとおもひききききききき
 雲のわし一州へまれすききき云
 鳴る鳴のききききききききき
 志と徳利ききききききききき
 竹針と徳やきききききききき
 鬼ひきききききききききき
 成りたりききききききききき
 雲のわしききききききききき

常
 市
 安
 洪
 更
 更
 葛
 輕
 細
 海
 扶
 下
 水

仲給結つ



老漁り船をききききききき
 船人けしきききききききき
 舟ききききききききききき
 舟も尼を回れきききききき
 その味い子けきききききき
 味ききききききききききき
 舟もいききききききききき
 料理きききききききききき
 結つてや細ききききききき
 結つてや細ききききききき
 結つてや細ききききききき
 結つてや細ききききききき

糎
 木
 水
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟



舟の瀬



川舟也之船と流るるも能く其
 川舟也舟の積り多き舟入
 川舟也舟の積り少き舟入
 川舟也舟の積り多き舟入
 川舟也舟の積り少き舟入
 川舟也舟の積り多き舟入
 川舟也舟の積り少き舟入
 川舟也舟の積り多き舟入
 川舟也舟の積り少き舟入

目科 花糸 川舟 弘山 中島 茂松 大江丸 友昇 首尾 畔文 号南 船さか

川社夕板
 舟の瀬



舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其
 舟と流るるの船と流るるも能く其

目科 花糸 川舟 弘山 中島 茂松 大江丸 友昇 首尾 畔文 号南 船さか



秋の意やもくつと為るるは元来もたふ
 若かきやうの葉を写すを憂ふ
 成はぬものも好まざるを憂ふ
 秋の意やもくつと為るるは元来もたふ
 若かきやうの葉を写すを憂ふ
 成はぬものも好まざるを憂ふ

角丈 金野 深水 文友 芦村 芳谷 浪尾 辰廣 且来 友泉 信見



秋 晴 色

玄山と眺るるをくつと為るるは元来もたふ
 若かきやうの葉を写すを憂ふ
 成はぬものも好まざるを憂ふ
 秋の意やもくつと為るるは元来もたふ
 若かきやうの葉を写すを憂ふ
 成はぬものも好まざるを憂ふ

延昌 其能 岩海 南畝 激然 福雀 芸栗 四叶 里遊 市就 延昌 永徳



五
雅
詠

夏竹やゆりのやうな草もよく
 十葉やふゆの中を結花結ぬる
 藤をまのやのうのを透す藤の
 蔭ゆふや里をもよひて時斗竹
 千歌のまうけさや時斗草
 川をわがやつり竹やたふら源
 夕海や約枝竹のふき河のし
 石解やゆをわづ水をゆけそ
 石解や小石をかゆの事種
 天夢の花や地を透す美を結ゆ
 病葉やふさぬ葉ののりけら
 草やふさぬ葉ののりけら

角生
 結山
 柱花
 後松
 共松
 赤松
 羊我
 有若
 若草
 花吹
 蓮水
 夜玉

明治十三年六月十五日版權免許

編輯兼
出版人

日本橋區吳服町北番地

廣田精知

京橋區南橋町二番地

發兌人

西口忠助

書

肆

發

賣



甲府

名古屋

片野東四郎

同

川勝德次郎

西京

藤井孫兵衛

同

柳原喜兵衛

同

岡島真七

大阪

前川善兵衛

同

山中市兵衛

同

稻田佐兵衛

同

北畠茂兵衛

東京

北畠茂兵衛

